

平成 28 年 6 月の解説（府県天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は、北日本では、低気圧や寒気の影響で北海道地方を中心に降水量が多くなりました。東日本では、移動性高気圧に覆われることが多かったため、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。沖縄・奄美では前線の影響で曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れる日もあったため、旬平均気温はかなり高くなりました。梅雨前線が 4 日から 5 日にかけて本州の南岸まで北上し天気が崩れたため、九州南部、九州北部、四国、中国、近畿、東海の各地方は 4 日ごろ、関東甲信地方は 5 日ごろに梅雨入りしました（速報値）。

中旬は、北日本では低気圧が通過することが多かったため、降水量がかなり多く、日照時間が少なくなりました。特に北日本太平洋側では、旬降水量が平年比 270%となり、1961 年の統計開始以来 6 月中旬としては最も多くなりました。また、太平洋高気圧が日本の南で強い勢力を維持し、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、東日本以西では気温がかなり高くなりました。梅雨前線の影響で西日本では降水量が多くなりました。また、前線上で発達した低気圧の影響で、東日本から沖縄・奄美にかけて大雨になったところもあり、北陸地方と東北地方では 13 日ごろに梅雨入りしました（速報値）。一方、沖縄・奄美では旬の後半に太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなり、沖縄地方では 16 日ごろ、奄美地方では 18 日ごろに梅雨明けとなりました（速報値）。

下旬は、梅雨前線が西日本から東日本の南岸に停滞することが多く、南からの暖かく湿った空気により、活動も活発で、19 日から 30 日にかけては西日本の広い範囲で大雨となりました。19 日から 30 日までに観測された総雨量は九州地方の広い範囲で 500mm を超え、熊本県や宮崎県では 1000mm を超えたところがありました。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすかったため、日照時間が多くなりました。強い日射に加えて、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、沖縄・奄美では旬平均気温が平年差 1.5 となり、1961 年の統計開始以来 6 月下旬としては最も高くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本では高くなりました。月降水量は、北日本、西日本太平洋側ではかなり多く、西日本日本海側では多くなりました。釧路（北海道）、福山（広島県）、高松（香川県）など 6 地点で 6 月の月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。月間日照時間は、北日本日本海側、西日本では少なくなった一方、東日本日本海側、沖縄・奄美では多くなりました。

【6月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 3 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 81%でした。各地方の適中率では、明日予報については、関東甲信地方以外の全ての地方で例年値より高くなり、四国地方では 9 ポイント高くなりました。明後日予報では、東海、北陸、九州南部の各地方では例年値より低くなりましたが、それ以外の地方では例年値より高くなり、特に近畿地方と四国地方で 10~11 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.7 となりました。また、全ての地方で例年値以下となり、特に中国地方では 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.1 となり、全ての地方で例年値以下となりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報の利用にあたって】

8月は9月に次いで台風による災害の多い月です。1981年から2010年までの30年間の平均では、8月の台風の日本への接近数は3.4個、上陸数は0.9個で、それぞれ年間を通して最も多い月となっています。台風は、暴風や大雨、高潮などによって大きな災害を引き起こします。台風が日本付近に接近すると予想されている場合には、最新の台風情報や気象情報、警報・注意報などに十分注意してください。